

普及活動情勢報告（令和4年10月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

ユズの本格的な出荷が始まる ～柚子部目慣らし会を開催～



10月2日から11日にかけて、J A安芸地区柚子部各支部が令和4年産酢玉等の受入れに係る目慣らし会を開催し、合計で生産者425人が参加しました。

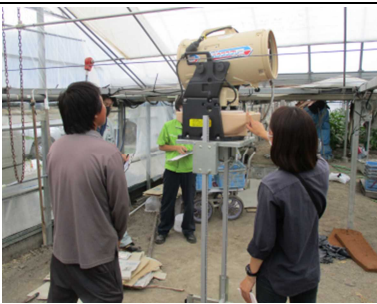
目慣らし会では、酢玉や黄玉、冬至玉の出荷に向けて、受入れ基準などについて確認しました。

農業改良普及課は、脚立の事故防止について啓発するとともに、秋肥の施用や収穫後の管理等について周知しました。

参加者からは、「今年は全体的に着色が早い」「秋肥の重要性が理解できた」といった意見が出されました。

農業改良普及課では、今後も需要に応じた高品質果実の生産に向けて支援していきます。

農薬散布の省力化に期待 ～常温煙霧機の実証試験～



10月6日、安芸市のナス生産者2戸のハウスに常温煙霧機を設置しました。常温煙霧機は、農薬を超微粒子で散布する機械であり、タイマーによる無人防除を行うことができます。

この設置は農業改良普及課から常温煙霧機を用いた病害防除体系を提案・実証するためのもので、生産者からは農薬散布の省力化を期待する声があがりました。

農業改良普及課は促成ナス栽培における省力化技術の普及に向け、常温煙霧機による実証を重ねながら防除体系を検討・提案していきます。

知って防ごう鳥獣害 ～東洋町のポンカン振興対策協議会から～



10月6日、東洋町ポンカン振興対策協議会は臨時総会を開催し、甲浦柑橘部員や関係機関ら22人が参集し、今後の活動計画などについて協議しました。

農業改良普及課室戸支所は、本協議会で後継者の確保、鳥獣害対策の推進、省力化技術の普及等の活動に携わっています。

今回は、園地で被害が多発しているサルやシカについて、鳥獣対策専門員から、群れや個体数の事前調査、行動・習性の把握、被害状況の地図化で、追い払いや防護柵・檻などの方法や設置場所などの対策が決まるとの指導を受けました。

今後、室戸支所では協議会で被害状況を情報共有しながら、具体的な対策に向けて支援します。

「楽しく！楽に！儲かる！」農業を目指します ～「SAWACHI」への加入推進～



10月7日、安芸市川北江川土地改良区においてIoPクラウド「SAWACHI」の説明会を開催し、9人が参加しました。

農業改良普及課は、8月から基盤整備課と連携し10地区の土地改良区の組合員を対象に、高知県が運用するIoPクラウド「SAWACHI」への加入を呼びかけてきました。

生産者からは、「SAWACHIに接続できる環境測定装置はどのようなものがあるか」などといった質問があり、会の終了後には、2人から加入申込がありました。

農業改良普及課は、データに基づいたより良い営農指導を行い、生産者が「楽しく！楽に！儲かる！」農業を目指します。

ハウス内環境について新規就農者が学びました ～第4回農業基礎研修講座～



10月11日、第4回農業基礎研修講座を開催し、新規就農を含む生産者16人が参加しました。講座は「ハウス内環境について」で、環境制御普及推進の担当者が、水分、光、二酸化炭素などについて環境要因ごとに管理方法等を説明しました。

参加者から、「植物内での養水分の動きが分かった」、「管理がナスの生育にどう影響したかチェックすることが重要。管理ミスを減らし収量低下を少なくしたい」といった感想が出されました。

普及課では、今後同講座を11月(病害)、12月(農業経営)の2回予定しています。

新商品・「冷凍揚げナス」の加工取り組み支援 ～日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト～



10月12日、工業技術センターで(有)安芸グループふぁーむの代表と関係機関が冷凍揚げナスの試作をしました。

6次産業化セミナーで講師から指導を受けた内容に沿って、生ナスと事前に冷凍したナスとの揚げ上がり品質の比較や、冷凍揚げナスの品質や賞味期限を確認するための真空パックも行いました。

代表からは「OEM先との調整や販路開拓を急がないといけない」との声があり、商品化に向けて残された課題が明確になってきました。

農業改良普及課は、新商品開発に向けて今後も関係機関と連携を取りながら支援していきます。

楽しんで、きれいなイチジクを取っちゃろう！ ～収穫作業のカイゼン～



10月14日、（一社）なはりの郷のイチジクほ場で、栽培担当5人が収穫作業のカイゼンに取り組みました。

今年度は、昨年対比約3倍の収穫量であったことから、収穫作業時の労働負荷の低減やキズによる規格外品を減少させることが新たな課題となっています。そこで、農業改良普及課では収穫用コンテナの変更や緩衝資材の利用を提案しました。

栽培担当からは、「イチジクが動かないように緩衝資材を加工したい。」や「コンテナには取っ手があるほうが持つのが楽。」といった意見が出され、カイゼンに向けて動き始めました。

農業改良普及課では、今後も、労働負荷低減や品質向上に向けた取り組みを支援していきます。